

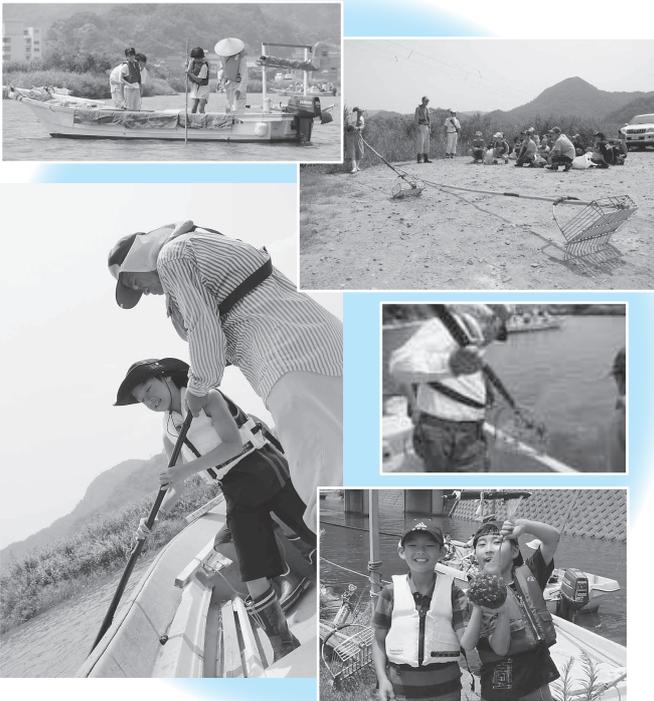
●子どもたちによる地域の宝探し「ワンピース」(7月27〜29日)

公募で集まった市内21人の小・中学生が、さまざまな体験を通じてラムサールエリアの宝物を見つけていく子どもも交流イベント。ひとつなぎの秘宝を探す人気マンガにあやかり、「ワンピース in Toyooka」と題して行いました。

①円山川の漁体験

まずは、川の上からラムサールエリアの風景をしてみることにスタート。円山川漁業協同組合、同城崎支部などの方々に指導いただき、初めてのシジミ漁を体験しました。

ハマグリ漁歴60年のベテランから円山川の特徴や川漁の歴史の話を聞き、自分たちなりに「円山川の宝」について考え、意見を出し合いました。

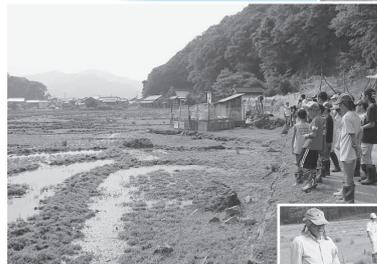


円山川ってスゴイ!

②湿地作業体験

続いて田結に移動。湿地や川の生きものを探した後、弥生時代の田んぼに似せて作られた小区画の湿地を見学し、説明を受けました。

その後、自分たちでも小区画のあぜづくりに挑戦。田結区の人たちが取り組んでいる「小さな自然再生」を体験しました。



しんどい、けどオモシロイ!



ナイトツアーで鹿も見たヨ!



コウノトリも飛んできた!

③田んぼ・ビオトープ見学

豊岡で広がりつつある「生きものを育むお米づくり」について、また、使われなくなった田んぼの新たな活用策としての「ビオトープ水田」について学びました。



暑いときは、水路が一番!

【プラスの体験】



セスナに乗って上空からまちの姿も見たんだ!

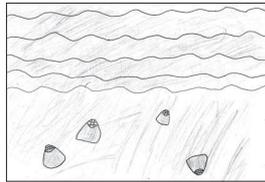


体験ごとに、各班が見つけた三つの宝を絵に描いて提出。最後に、みんなで一つの体験につき三つずつの宝を選び出しました。

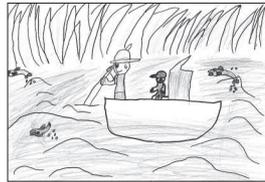
4班に分かれた子どもたちが、中学生リーダーを中心に、それぞれが感じた宝物を発表し、絞り込んでいきます。最後は全体討論を行い、九つの宝物と、その宝をつなぐメッセージを作成。2泊3日の合宿プログラムの間、活発な体験活動はもちろん、長時間にわたって話し合いを続けてくれた子どもたちの姿に、豊岡の明るい未来を感じました。

見つけた九つの宝を、「ワンピース(ひとつなぎの秘宝)」にするためのメッセージを、子どもたちが考えてくれました。

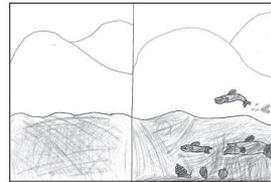
子どもたちからのメッセージ
受け継ごう 豊岡の宝
忘れないで 大切に思うその気持ち
守り抜こう 豊かな自然



水をキレイにしたいという願い



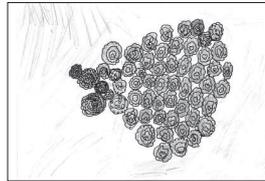
じゃれんを使って漁をするおじさん



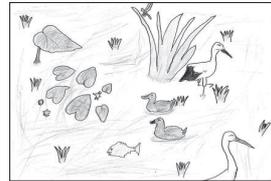
川の水が汽水であること



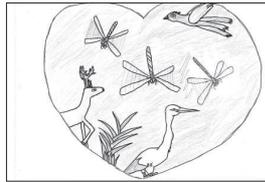
弥生田んぼを手入れしている人びと



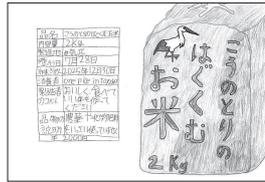
オオアカウキクサ



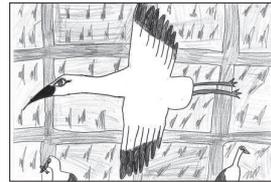
生きもの



生きものを大切にしている人びとの気持ち



コウノトリ育むお米



増えているコウノトリ



ひろき
谷口宏樹くん
(豊岡北中2年)

自然に興味があり参加した。一番印象に残ったことは、円山川にシジミやハマグリがいたこと。今回の宝探りで、ますます豊岡の自然に興味を持った。機会があれば、また参加したい。

本当に熱心に話し合ってくれました。



① 円山川の宝

② 田結湿地の宝

③ 田んぼの宝

ラムサール湿地
円山川下流域・周辺水田



意識が広がり、自然再生が広がり、ラムサール湿地エリアも広がっていく。その先には、どんな豊岡の姿が描けるでしょうか。今、新たなスタートです!

田結の放棄田に平成20年、コウノトリが舞い降りた。区では、人工的に湿地を作る取組みを始めた。田結には、コウノトリの舞い降りる田んぼがあり、絶滅危惧種の発見もある。自然の素晴らしさを再認識した。これまで一生懸命取り組みできたことが認められてうれしい。しかし、認められることがゴールではなく、今後、何をやっていくかが大切なので、みんなで考えていきたい。



田結区長
大嶋 聡さん

大人からもメッセージ ～ラムサール登録について思う～

ラムサールへの登録を目指してきたので、本當にうれしい。また、この豊かな自然を守っていかなくてはならないという責任と試練を与えられたとも思っている。今後、コウノトリの餌があり、子どもが遊べる水辺をつくる運動を強化する必要がある。皆さんに、ふるさとのこの地が世界に認められた湿地であるということとを誇りに思ってもらいたい。



コウノトリ湿地ネット
代表 佐竹節夫さん